

Positive Affect

A. M. Isen

1.

イントロダクション

穏やかな ^{positive affect} ポジティブ感情 (幸せな気分) は、社会的行動・思考過程に、さらには認知的処理それ自体に、影響を与えることが知られている。

ポジティブ感情は(意外にも)、思考・問題解決の効率を高め、同時に注意深く全般的なものにする。

2.

背景

2.1 穏やかなポジティブ感情

本章で扱うのは穏やかなポジティブ感情である。強いポジティブ感情は、質的に異なる効果を持つだろう(注意を阻害、ないし注意を必要とするから)。

2.2 感情誘発の概念的確証

以下の点が問題になる:

- 感情誘発によって、意図されたポジティブ感情がもたらされているか
- 観察された行動的・認知的効果は、誘発された感情の結果なのか

ひとつの方法は、いわゆる”操作チェック”をすることである。自分の経験している状態を自己報告する質問紙が用いられることが多い。しかしこの方法では、

- 課題の遂行が干渉されたり、普通よりも自分の感情に意識的になったりするかもしれない。
- 自己報告が妥当な指標かどうかははっきりしない。

もっとよく使われる方法は、違う形式の感情誘発を併用することである (e.g. 予期せぬ小さな贈り物を渡す/コメディ映画を5分間みせる)。従属変数に同様の効果が現れた場合には、それは2つの処理に共通する要因(幸せな気分の誘発)によるものだと解釈できる。

こうした妥当性確保には、結果が理論的予期と整合的であることを示す、という面もある。たとえば、感情状態に影響されないと思われる従属変数も取り入れて、整合性を示すというやりかたもある。

2.3 ポジティブ感情とネガティブ感情

ポジティブ気分の効果とネガティブ気分の効果は、ふつう対称的ではない。たとえば:

- ^{sociability} 社会性 と ^{helpfulness} 援助性 はポジティブ感情によって促進されるが、ネガティブ感情によって阻害されるかどうかについては諸説ある。
- ポジティブな記憶材料の検索はポジティブ感情によって促進されるが、ネガティブな材料へのネガティブ感情(悲しい気分)の効果は明確でない(わずかに促進される)。

その第一の理由として、ポジティブ感情とネガティブ感情とでは構造がちがう、という点を挙げることができる。

- ネガティブな基本感情は3つ挙げられるが(怒り, 恐れ, 悲しみ), ポジティブな基本感情は1つしか挙げられない(喜び)。
- ポジティブ感情は幅広く包括的に組織化されているが、ネガティブ感情は限定的でばらばらに組織化されている(臨床的抑うつではそうでもなさそうだが)。

2.4 ポジティブ感情は体系的な認知的処理を促進するか、ないし阻害するか?

...場合による。いくつか要因を挙げると:

- 課題
- 環境と文脈
- 目標
- 同時に行われている課題
- どういう意味で「促進」とか「阻害」とかいつてるのか

近年の研究は、これらの要因の相互作用に焦点をあてている。

ポジティブ感情は、

- 概して、思考・社会的相互作用・動機づけによい影響を与える。
- しかし、認知的資源ないし熟考への動機づけを減らすせいで、“体系的”処理が損なわれる場合もあるといわれている。

本章の最後で、後者がなぜ、どのようなときに起こるのかについて考察する。

3. ポジティブ感情は向社会的行動を促進する

ポジティブ感情は、

- 他者への ^{helpful} 援助的・^{sociable} 社会的 な行動を促進する。
- 対人間葛藤を減少させる。
- 契 約 ^{bargaining} や 交 渉 ^{negotiation} のような相互作用において、双方によって良い結果を導く。

Isen(1970JPSP); Isen&Levin(1972JPSP):

要因 つまらない課題をやらせておいて、{うまくいったので募金にたくさん寄付できたと教示/
失敗の報告を渡す/(統制)}

従属変数 本・書類を抱えた見知らぬ人を助けようとするか

結果 募金群で高

ただし、ポジティブ感情によって援助行動が減る場合もある。E.g. 相手の苦境が深刻でなく、援助によってポジティブ感情が衰えるとわかっている場合 (Isen&Simmonds,1978Soc.Sci.Qu.)。

4. ポジティブ感情は認知に影響を与える

ポジティブ感情が社会的相互作用に影響するのは、それが意志決定の認知的過程に影響するからだ、といわれている。

4.1 記憶と複雑な認知的文脈

感情状態が意志決定に影響する過程には2つの重要な側面がある:

- ポジティブ感情は、記憶におけるポジティブな材料の再生を促進する。
- ポジティブな材料は、^{extensive} 幅広く、^{diverse} 多様で、^{well-integrated} よく統合されている。

後者は、ポジティブ感情下では豊かで複雑な認知的文脈が心に浮かぶことを意味する。

4.2 単なる「バイアス」や「反応バイアス」ではなく

ポジティブ感情は「バラ色眼鏡」のようなバイアスとして働くのではなく、多様な材料の検索につながり、状況の多様な側面についての思考、ひいては創造的・効率的な問題解決を可能にする。

ポジティブ感情がもたらす影響は複雑である(単純なバイアスではない)。たとえば、...

材料の感情値 ポジティブ感情は(すべてではなく)ある種の材料に影響する。

Isen,Niedenthal&Cantor(1992Motivation&Emotion):

課題 人をカテゴリに分類する

結果 ポジティブ感情は、正-ネガティブ間の例を

- ポジティブカテゴリに分類する(バーテンダー 優しいひと)のに影響するが、
- ネガティブカテゴリに分類する(天才 落ち着かないひと)のには影響しない。

Isen,Johnson,Mertz&Robinson(1992JPSP) :

課題 単語連想

結果 ポジティブ感情は幅広く多様な連想をもたらす

ポジティブ感情は、ポジティブ材料すべての手がかりになるのではなく、<それについてのポジティブな思考が心のなかにあるようなポジティブ材料>の手がかりになる。

状況的要因

Kraiger,Billings&Isen(1989OBHDP) : 組織論の文脈での研究

要因 課題が {enrich(従業員の自律性, 活動の多様性が認められる) /unenrich}

結果 ポジティブ感情はenrich な課題の知覚・満足に影響

Kahn&Isen(1993J.Consumer Res.) : ^{variety-seeking}多様性志向の研究

課題 スナック菓子の選択

要因 選択肢が { おいしいと教示 / まずいと教示 / 未知 }

結果 おいしい群でのみ、ポジティブ感情が多様性選好を促進

Isen&Geva(1987OBHDP); Isen&Patrick(1983OBHDP) : リスク志向性の研究

- 低リスク or 仮想的リスク下では、ポジティブ感情はリスク志向性を増す
- 高リスク or リアルなリスク下では、ポジティブ感情はリスク志向を減らす

4.3 ポジティブ感情は認知的柔軟性・創造性を促進する

... ポジティブ感情下にあるひとは:

- 新しい単語連想を生成する
- 典型的でない製品を好む
- 単語・製品の分類において、柔軟なカテゴリ化をする
- ひとの分類においても柔軟になる (ポジティブなカテゴリへの分類でのみ)
- 交渉において良い結果を得、課題を楽しむ (Carnevele&Isen,1986OBHDP)
- 安全な選択肢間で多様性志向を示す
- 創造的問題解決課題 (Dunckerのろうそく問題;MednickのRemote Associates Test) で高い成績を示す (Isen, Daubman&Nowicki,1987JPSP; こどもに関して Greene&Noice,1988Psys.Rep.; 医者に関して Estrada, Young &Isen,1997 Motivation&Emotion)

その理由は:

- ポジティブ感情は記憶におけるポジティブな材料の再生を促進し、ポジティブな材料は ^{extensive}幅広く、^{diverse}多様で、^{well-integrated}よく統合されているので、豊かで複雑な認知的文脈が心に浮かぶから
- ポジティブ感情下ではドーパミンが分泌される。ドーパミンは認知的創造性と関係するらしい (課題の理解の仕方に影響するらしい) (Ashby,Isen&Turken,1997PR)。

4.4 認知的柔軟性の拡張が社会的課題への感情の影響に影響するのかもしれない

... ポジティブ感情下にあるひとは:

- 先入観に合わない事実を無視しなくなる
- すぐれたコーピング・スキル&スタイルを示す

これらは認知的柔軟性の拡張によるものであろう。

Carnevale&Isen(1986OBHDP) : 契^{bargaining}約の研究

課題 対面的交渉

結果 ポジティブ感情条件下では

- 双方にとって良い結果が得られた
- 課題を問題解決的にとらえ、双方にとって良い結果を探そうとする傾向 (opp. 撤退, 競合) がみられた

Dovidio, Gaertner, isen&Lowrance(1995OBHDP)

課題 カテゴリ化

結果 ポジティブ感情条件下では、他グループのメンバーを (上位カテゴリに注目して) 包含する傾向がみられた

4.5 ポジティブ感情と意志決定

ポジティブ感情は、意志決定課題において (その課題が重要 or 興味深いものであれば)、全体的な・注意深い決定をもたらす¹。

Isen&Means(1995Soc.Cog.)

課題 架空の自動車の選択

結果 ポジティブ感情条件下では、決定が早く効率的

¹ [小野注] 竹村(1996)によれば、

- 単純だが効率的な決定方略を用いやすくなるそうです。たとえば、Isen&Means(1995)のポジティブ群では、EBA決定方略(必ずしも最適ではないが効率よい)が多く見られたそうです。
- 覚醒水準によって効果が異なるという研究もあるそうです (Lewinsohn & Mano, 1993 J.Beh.Dec.Mak.)。

Isen,Rosenzeig&Young(1991Medical Dec.Mak.)

Ss 医学生

課題 疾病/患者-選択課題

結果 ポジティブ感情条件下では，決定が早く正しく，求められる以上のことをする。

Estrada,Isen&Young(1997OBHDP)

Ss 医者

結果 ポジティブ感情条件下では，診断が早く初期の仮説への「係留」が少なく，結論に飛びつかない

4.6 リスク・テイキングへのポジティブ感情の影響

ポジティブ感情下では ...

- 危険が現実的で重大な場合には，リスクを避けやすい
- 良い結果の主観確率が増える (Johnson&Tversky,1983JPSP; Nygren,Isen,Taylor&Dulin,1996OBHDP)
- ネガティブな結果の主観効用がよりネガティブになる (Isen,Nygren&Ashby,1988JPSP)
- 確率より効用が重視される (Nygren et al,1996)

... 動機づけが影響していることを示唆している。

5.

ポジティブ感情と動機づけ

(研究は少ないが) ポジティブ感情下では ...

- 一般的動機づけ(“がんばる”)への影響はみられない。
- ポジティブ感情を維持しようとする (cf. 深刻な危険を避ける; ネガティブ選択では多様性を求めない)
- 内発的動機づけが高い (cf. enrich な課題への知覚・満足が向上)
- 満足を内発的なソースに求める

6.

結論

ポジティブ感情は { 認知的容量を占める or 注意深く処理しようという動機づけを阻害する } ので，体系的処理を損なう，と指摘した研究もある (Mackie&Worth,1991in Forgas(ed.); Bless,Bohner,Schwarz&Strack,1990Personality&Soc.Sci.Bul.)。しかし，

- 多くの研究は異なる結果を得ている
- 注意の配分の研究でも逆の知見が得られている (Derryberry,1993Motiv.&Emo.)
- Ss が課題にまじめに取り組んでいなかった場合に限られるのではないか (Bodenhausen, Kramer& Susser,1994 JPSP)

一般的に，ポジティブ感情は (課題が興味深くかつ重要である限り) 意志決定・問題解決を促進する。このことは，人間の思考が目的的であり状況・目標の多様な特性に依存するという見方とも一致している。

おしまい